

真弓創の梶雄松永久秀に対する
父娘の苦心を描く歴史時代小説（「茶話歴談」）

難波田節子の女子中学生の心の陰影を綴る作品（「季刊遠近」）

志村有弘

現代小説では、難波田節子の「驟雨」（「季刊遠近」第69

号）が、高校受験を控えた女子中学生の心裡を描いた力作。「私」は早くに母をなく

し、父と二人で暮らしてきたが、父の転勤で東京の中学校に転校した。引越してすぐ

に義母が来た。「私」は幼いときから、伯父の再婚相手の連れ子洋介への思いを抱き続

けていた。中学生の「私」が大人に接する処世術を身につけていることに、とまどいを

感じないでもないが、ともあれ、巧みな表現は難波田なら

ではの名人芸。